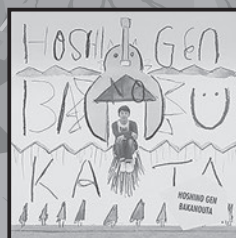


鱗祭 第四弾

拡大版 BOOK
CD 目から鱗

鱗祭が2年ぶりの復活です！今回は本だけでなくCDもあわせた9つの作品をご紹介します。秋の夜長のお供にぜひ。



UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



だいおう おすすめ本

ののとはな通信

三浦 しをん



記事執筆者のコメント

よくある恋愛小説かと思いきや、「想い」という巨大なテーマを往復書簡だけで描いた唯一無二の傑作。普通の本とはちょっと違う読書体験をしたい方にぜひ。

想いに名前がつけられない。

『ののとはな通信』は、「のの」と「はな」の往復書簡だけでつづられた物語だ。ミッション系の女子高で出会った、冷静沈着で頭脳明晰な「のの」と、天真爛漫で無邪気な「はな」。少女たちは正反対であるがゆえに、唯一無二の親友となった。家のこと、友人のこと、自分のこと、いくら書いても書き足りないばかりに、二人は手紙を送り合う。やがて親友から恋人になった二人。燃えるような独占欲も、溺れるほどの愛情も、二人だけの秘密だった。情熱と喜びにあふれた恋はしかし、ある裏切りによって終わりを迎える……。少女たちの激しい感情の動きが、驚くほどリアルに表現されているこの物語はもちろん、恋愛小説として楽しむこともできる。

しかし、ここまで濃密な恋愛が終わってなお、ページがまだまだあることにきっとあなたも驚くだろう。この小説の真の凄さは、彼女たちの物語が恋が終わった後も続く所にある。大学生、社会人、と彼女たちは大人になっていき、別れと再会を繰り返しながらやりとりを重ねる。40代になった二人が交わす文面は10代の頃とはまるで違う。しかし二人が交わす想いはあの頃のように燃え上がらずとも、やり取りの奥底にひっそりと横たわっている。大人になった彼女たちが互いに向ける想いは、愛情も友情も混じって簡単にはラベリングできない。モノでも人でも、何かを想う気持ちはそんな単純に名前が付けられるものではない、それは誰もが感づいてはいるけれど認められない事実かもしれないと気付かされる。曖昧な「想い」を持ち続けて大人になった彼女たちのやり取りのどこかに、自分の人生を見つけれられる小説である。

はみだし
すてーじ

栗って野菜？ 果物？

⇒農林水産省の区分では「果樹」ですが、馴染まないときは「果物」でも良いようです。

(ちなみにおはぎに使われる小豆は豆類の中でも雑豆に含まれるそうです；編)

(工・4 おはぎで洗顔)



荒野 のおすすめ本

きのうの影踏み

辻村 深月

子供の頃に流行った遊びを、あなたは覚えているだろうか。嫌いな友達を消すおまじないやこっくりさんなど、大人には言えない危険な遊びをやってみたことがある人もいるだろう。そういう危険な遊びほど、迷信だからやめなさい、と大人は咎める。しかし大人になった今、あの時の遊びは本当に迷信だったと言い切れるだろうか。あの時怪異が起こらなかったとしても、本当に何もなかったと言い切れるのだろうか。

本書は日常に潜む少しの違和感や奇妙な現象を詰め込んだ怪異集である。いわゆる怖いお話というと、幽霊や妖怪などのあからさまに怖いモノが出てくる話を想像するだろう。しかし本書に収められている13の短編にはそのような怖いモノは登場しない。では何が怖いのだろうか。私たちが無意識のうちに信じてしまっている世界の常識が、実は存在しない



記事執筆者のコメント

いわゆる怖いお話が苦手な人でも読める作品だと思います。夏はホラーだ！ ということでこの作品を紹介しようと思ったけど、掲載されている今号は秋号……。

のだと思わせるからこの作品は怖いのだ。今あなたと話している友達は私と同じ世界で生きていて、暗闇の中抱いている赤ちゃんは自分の子供である。無意識のうちに私たちはそう思い込んでいるが、本当にそうであるとは言い切れない。明日自分の身にもその異変や怪異が起こるかもしれないと思えるからぞっとするのだ。

子供の頃の遊びだって世界の常識のやぶれめであるかもしれない。危険な遊びで怪異が起こらなかったからといってそれが失敗とは言い切れないし、実は隣にいた友達がその日から別人にすりかわっているかもしれない。そのことに気づいてしまうと、もう何も信じられなくなる。これこそが本書における恐怖なのである。今あなたのすぐそばに常識のやぶれめがあったとしたら……？

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



偲月 のおすすめ本

いなくなった私へ

辻堂 ゆめ

全然わからないことだらけの新たな環境に放り込まれて何にもないところから始めなければいけなかったり、一生懸命に挑んできたものに挫折したりしたとしても根本的なものは消えずに残っていて、0からでも作り出していくことができる、失ってからでもまた始められることがある。そう思わせる作品だ。

国民的シンガーソングライター・上条梨乃が意識を取り戻すとそこは渋谷のゴミ捨て場だった。無防備に顔をさらしているのに誰にも「上条梨乃」だとは認識されない。違和感を覚え、鏡を見るが、自分では梨乃自身の顔に見え、別人になってしまったというようなことは見受けられない。そのうえ、目に飛び込んできたのは電光掲示板に写った「上条梨乃さん 昨夜自殺」という見出しだった。そんな中、梨乃の存在に



記事執筆者のコメント

5年くらい前に読んで、ずっと心に残っていた作品です。時間を空けずに読んだり、忘れかけているとき読んだりいろいろな楽しみ方ができました。是非。

気が付いたのは、バンド活動をしている大学生の佐伯優斗と、同じように亡くなったとニュースになっていた少年、立川樹のみだった。樹も梨乃と同じように家族、知人から本人だと認識されず、途方に暮れていた。自殺したと言われている日の帰宅後の記憶はなく、自分が自殺したということにも疑問を抱いていた梨乃は、所属していた芸能事務所ではアルバイトをしながら、2人とともに事件の真相を探っていく。すると、ある泉の伝説と、その水を利用したカルト教団が浮かび上がってくる。

鮮やかな伏線の回収とともに物語は加速していく。そして暖かな春の日差しのような柔らかく心地良い読後感が読者を包みこむとともに、物語の世界から現実へと優しく戻し、そのまま歩いていけるように背中をそっと押してくれる。

はみだし
すてーじ

いやだいやだ!! 卒業したくない!! もう一年遊びたいドン!!
⇒いやだいやだ!! 勉強したくない!! もう一生遊びたいドン!!

(文・4 ショコラ)
(夏休みの延長申請してきます;編)



海条 のおすすめ本

medium

相沢 沙呼

霊媒師は、論理を求める推理小説にふさわしくないのか。『medium』では、霊視ができるという霊媒探偵の城塚翡翠が推理小説家の香月史郎と共に殺人事件を解決していく。翡翠はアシスタントの女性と二人で暮らす、帰国子女のお嬢様。香月は犯罪者の心理の洞察・描写に優れ、警察の捜査に協力し難事件を解決してきた。彼らは捜査に役立つ物的証拠を求め、翡翠の証言による手掛かりを香月が論理的な解釈に媒介する。

二人が立ち向かうのは幽霊にとりつかれていると占い師に告げられた若者の死、別荘での殺人、高校生絞殺事件。これらと並行し、亡霊と呼ばれる犯人による連続殺人事件が起こっていく。犯人は防犯カメラを完璧に避け、犯行の際は人目につかない場所を選択し、証拠を全く残さない。そして、



記事執筆者のコメント

推理小説ならではの爽快感が味わえる。超常現象要素はほとんどなく、解決編は論理的。翡翠ちゃんの活躍は『invert』にも描かれている。表紙の絵も非常に魅力的。

警察の捜査手法を次々とつぶしていき捜査の手から逃れ続ける。この犯人を捕まえられるのは、もはや特殊な能力を持つ翡翠しかいないのだ。被害者は皆、若くて髪が長く美しい女性。死因はナイフを抜いた後の失血死。犯人は殺害後に毎回、死後の世界の様子と殺害による痛みの有無を被害者に尋ねる。碧玉色の瞳を持ち天然さとミステリアスな雰囲気纏う美しい翡翠は、最終的に連続殺人鬼に勝つことができるのか。

幽霊の存在を信じていなくても、霊媒師に興味がなくとも、この本は推理小説を楽しみたい方の期待に応えてくれる。定番の文句と知っていながらあえて言うと、最後まで読み終えたときにもう一度冒頭に戻りたくなる作品。それでもやはり霊媒師は胡散臭いだろうか。そう感じる方にも、騙されたと思っで一読していただきたい。良い意味で騙されるから。

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



げんし のおすすめ本

蟬かえる

櫻田 智也

本書は昆虫好きのとぼけた青年・鯨沢泉を探偵役とした、全五編からなるミステリ連作短編集である。鯨沢による鮮やかな謎解きや温かくも哀しくもある人間関係が丁寧に書かれており、読んでいる最中に思わず膝を打ってしまうような小説である。またどの編にもセミやホタル、ハエなどのさまざまな昆虫が登場するところにも特徴がある。

本書を紹介するにあたり私が特に挙げたい魅力は謎解きの美しさ人間ドラマの奥深さの二点である。まず謎解きの美しさ。とても綺麗な謎解きである。華麗な伏線回収にハッとすること間違いなしである。例えば表題作『蟬かえる』では神社に入っていったはずの少女が一瞬のうちに消えてしまう。少女は幽霊や幻覚の類だったのかと思いきや、鯨沢は全く異なる推理を披露する。本文中にすでに書かれた情報を鮮や



記事執筆者のコメント

本書は実は『サーチライトと誘蛾灯』という連作短編集の続編なので、そちらを先に読むのがいいかもしれません。私は本書を先に読んでみましたけど。

かに回収して導き出された鯨沢の推理は驚くほど美しい。次に人間ドラマの奥深さ。本書では人の温かい面・冷酷な面どちらも描かれている。どの事件でもその裏には女性蔑視や人種差別、昆虫が媒介する熱帯病に対する経済的先進国の無関心などの、人間が抱える哀しい問題が隠れている。そしてこうした人間の冷酷な面と正面から向き合う勇敢な人々の心温まる姿が描かれている。複雑な人間模様にしみじみと感じ入ってしまう、そんな奥深さが本書にはある。

最後に〇〇賞受賞と聞くとつい飛びついてしまう私のようなミーハー気質の方々のために、本書が第七十四回日本推理作家協会賞と第二十一回本格ミステリ大賞小説部門をダブル受賞したという輝かしい情報を付け加えておきたい。光り輝くモノに飛びついてしまうのは昆虫も人間も同じであろう。

はみだし
すてーじ

「1」調べると「10」わからないが返ってくるので、一生進捗がうまれません
⇒大丈夫です。わからないことがわかったことこそ進捗です。

(葉・院 777)
(人間誰しもなんでもはわからないんですから；編)



一竹 のおすすめ本

総理にされた男

中山 七里

時の総理・真垣統一郎に容姿がそっくりな売れない役者・加納慎策は、意識不明に陥った総理の替え玉として、「総理を演じる」こととなった。政治に関しては下素人にもかかわらず加納は、野党や官僚との対決、そしてアルジェリアの日本大使館が占拠されるという前代未聞のテロ事件の対応を迫られる。

現代日本において、特にコロナ禍においては、国民の政治家への不信感の高まりが指摘される。政治家は自身の保身と利益の確保しか考えていない、国民の方を向いていない……政治家批判でよく使われる言葉だ。その点、総理としての加納の最大の武器は、無私無我であることだろう。彼は、いわゆる職業政治家ではない。青臭い理想を貫き、国民に自分の心からの言葉で語りかけることによって、時に危うさを孕み



記事執筆者のコメント

エンタメ小説としても面白い上、現代日本の様々な問題点を考えさせられる点でも勉強になります。政治家を目指す人も、そうでない人も必読です！

つつも、日本の政治を動かしていく。政治家というと原稿を読みながら淡々と話す印象の今日この頃、こんな政治家がいたらと読者に思わせる、理想的な政治家像だろう。一方で、ただ理想を提示するだけで現状に胡坐をかくのではなく、国民が抱える矛盾、すなわち国民は政治家不信を訴えるが、選挙を通して政治家を選びあるいは信任しているのは他でもない国民自身であるということを描き、国民へ反省も促す。

さらに本書は、まさに今夏アフガンで課題となった、邦人救助を目的とする自衛隊の海外出動の是非という問題も投げかける。意見の対立が鮮明だからこそ、結論が先送りにされてきた論点だ。この問題に真正面から取り組まざるを得なくなったとき、総理はどのように対応するのか。本書が描くリアルで精緻な顛末は、日本社会の諸相を浮かび上がらせる。

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI



月影 のおすすめ本

やがて君になる

仲谷 鳴

『やがて君になる』は、小糸侑と七海燈子の2人を軸とした物語だ。侑は少女漫画のようなキラキラした恋に憧れを抱いていた。しかし、中学校の卒業式で男友達から告白を受けても憧れていたような気持ちにはなれず、それ以来自分は誰かを「特別」に思うことが出来ないのだろうか悩んでいる。燈子は、昔は平凡な子どもだったが、誰からも慕われていた姉の死をきっかけに姉のような存在になろうと努力し、自らもみんなから認められる優等生になった。しかし、その裏で表舞台に立つ自分と本当の自分のギャップに苦しんでおり、優等生の燈子を「特別」に思い告白してくる人がいても、本当の自分を見せて失望されることを恐れて全て断ってきた。

そんな侑と燈子が高校で出会い、物語が動き出す。燈子は「誰のことも好きにならない」と話し、実際に自分がどんな



記事執筆者のコメント

本作には“Bloom Into You”という英題がつけられています。直訳するとほとんど同じ意味ですが、それ以上の何かを感じられる気がしてとても好きです。

姿を見せようと変わらず接してくれる侑に惹かれていく。一方、好きという感情を抱いたことがなく、燈子のことも好きにならないという約束を交わした侑の方も、長い時間を一緒に過ごすうちに燈子に特別な感情を抱き始める。

ここまで読んでいただいた方はお気付きだろうが、『やがて君になる』で描かれているのはガールズラブだ。しかし、同性同士の恋を阻む困難ではなく、恋愛における個人の葛藤がテーマになっているのが本作の特徴である。そういう意味で、本作は初めてガールズラブに触れるという方にも、異性同士の恋愛小説を読むのに近い気持ちで読んでいただける作品となっている。最後に、ここまで本作があなたも1巻完結の小説であるかのように書いてきたが、実際は全8巻のコミックスであるということをつけ加えておきたい。

はみだし
すてーじ

上で紹介した『やがて君になる』には、侑と燈子以外にも多くのキャラクターが登場しますが、中でもいい味を出しているのが燈子の親友でもある佐伯沙弥香です。沙弥香をメインにしたスピンオフ小説も3巻出ているので、そちらもぜひ読んでみてください！



真都。 のおすすめCD

ばかのうた

星野 源



記事執筆者のコメント

このアルバムの曲は、『ドラえもん』や『恋』とは異なり静かでどこか寂し気な曲が多いです。ちょっと雰囲気の違い星野の楽曲も堪能していただきたい……！

「どどどどどどどどドラえもん」の歌詞でおなじみの『ドラえもん』。「恋ダンス」が社会現象となった『恋』。今回は、そんな人気曲の数々を生み出してきた日本を代表するシンガーソングライター、星野源のファーストアルバム『ばかのうた』を紹介しよう。

このアルバムの良さは、一言でいうと星野の温かさに触れられる曲が多いということだ。例えば1曲目の『ばらばら』は次のような歌詞から始まる。

世界はひとつじゃない ああそのままばらばらのまま
世界はひとつになれない そのままどこかにいこう
どこかあきらめのようなものを感じる歌詞だ。「世界はひとつ」「心をひとつに」のようなことが目指される現代に対し、冷たく現実を突きつけているように見える。しかし最後の歌

詞に注目してほしい。「そのままどこかにいこう」。つまり、世界はひとつになれないが、そのままでもいいから自分の人生を歩いていこう、ということなのだ。皆でひとつになるということは、異質な存在を拒むということでもある。それに対し星野は、違っていることを認めていこうと言う。このように、世間一般のやり方とは少し違うかもしれないが、自分なりの愛、優しさをもって人間や社会に向き合う、これが星野の歌の特徴であるように思う。

他にも、母親のお腹の中で生き別れた妹を兄が思い描く『兄妹』、だいすきな妻のそばで、だいすきな自分の家で人生を終えたいと願う人の歌である『ゲー』など、星野の優しいまなざしを感じられる曲がこのアルバムにはたくさん収録されている。少し冷える秋。温もりを感じたくなったら是非。

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

UROKO MATSURI

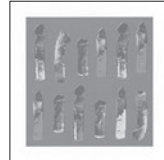
UROKO MATSURI



ゼリー のおすすめCD

THE TIMERS

ザ・タイマーズ



記事執筆者のコメント

このアルバムを本気で楽しむにはかなりの精神力が必要となるので、心が弱っている時に聴くのはあまりお勧めしません。元気な時に聴きましょう。

『THE TIMERS』は1989年に発売された、バンド：ザ・タイマーズのアルバムである。セブンイレブンのCMでおなじみ「ずっと夢を見てー♪」のあの曲（デイ・ドリーム・ビリーバー）もこのアルバムに収録されている。

このアルバム、かなりぶっ飛んでいる。ヤバい。なにせ一曲目『タイマーズのテーマ』から「Timer（←大麻の隠語？）が大好き」なんてカゲキなことを歌っている。そのほか、強烈なサウンドとグルーブで「偽善者」と連呼しまくるせいで一度聴いたら二度と忘れられず呪いのように脳内で響き続ける曲（偽善者）、「オイラとブルースしようぜ」と言って総理大臣を勧誘する曲（総理大臣）、相続税・所得税・有名税……と様々な税を並べ立てたかと思えば「脱税したいぜ」なんて歌っちゃう曲（税）、謎の言葉「イモ」が何度も叫ばれ

そのうちイモをイモと聞き取れなくなってくる曲（イモ）などなど……奇想天外、ワケの分からん怪しげな曲が目白押しである。うーん、ヤバい……しかしここまでぶざけておいて変な曲ばかりの単なるネタアルバムにならないのがこのバンドの偉大な所であり、例えば、偉い人たちの傲慢と無知を歌う曲（偉人のうた）、争いあう人々の裏で目的のために蠢く最も邪悪な存在を指摘する曲（争いの河）、反戦・反核・反原子力発電を歌った曲（LONG TIME AGO）、そしてデイ・ドリーム・ビリーバーなど、ロックとして音楽として非常に優れた曲もたくさん収録されている。真理とアホさの調和、それこそがこのアルバムの魅力といえるだろう……多分。

Hey Hey We're THE TIMERS♪ Timerがきれてきた♪
そろそろ終わりだ♪ やってられねえぜ♪（エンディング）

はみだし
すてーじ

ついに30代へとみ出しました。胃カメラ飲みました。もう昔みたいには食べられないねえ……。 (文・7 アウトロー文学部)
⇒胃カメラと聞いて、鼻から胃カメラを入れられた10代の夏を思い出しました (食べ過ぎだけでなく魚の骨にもお気を付けて；編)